

放射線教育の実施状況調査の結果（概要）

調査の概要

- **調査目的**：全国の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における①放射線教育の実施状況と②放射線副読本の活用状況について把握するために行うもの。
- **調査対象**：全国無作為抽出により調査対象学校を選定。
(小学校 1673校、中学校 1375校、高等学校 1259校)
※調査対象学校には義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校も含まれているが、「小学校」、「中学校」、「高等学校」と記載。以下同じ。
- **調査時期**：令和元年12月10日～令和2年1月24日

主な調査結果

①放射線教育の実施状況

- **授業等で放射線に関する内容を扱ったことや扱う予定がある学校の割合**：
小学校は約70%、中学校は約90%以上、高等学校は約80%となっている。
- **実施した主な教科等**：
小学校は社会や理科、中学校は理科や社会、高等学校は理科や公民となっている。
- **外部人材等を活用している学校の割合**：
小学校、中学校、高等学校ともに10%未満となっている。
- **教科等横断的な取組等を行った場合に工夫した点に関する意見の例**：

- ・総合的な学習の時間での平和学習（原子爆弾）及び防災学習（地震）、社会科での戦争に関する単元、修学旅行での広島訪問（平和公園・語り部さんの話など）を通して横断的な取り組みとした。
- ・社会科の授業において理科の学習内容を関連させて原子力の利用について学習している。

②放射線副読本の活用状況

- **放射線副読本を活用した学校の割合**：
小学校は約50%、中学校は約60%、高等学校は約30%となっている。
- **活用した主な教科等**：
小学校は社会や理科、中学校は理科、高等学校は理科となっている。
- **放射線副読本を活用した際に有効であった点に関する意見の例**：

- ・絵や写真があることで、子供たちにとって分かりやすい。
- ・内容がわかりやすく、教師が活用しやすい。
- ・放射線についての基礎的な知識だけでなく、風評被害や差別についても触れられているので、多面的に学習できる。
- ・教科書よりも内容が詳しいため、理解を深めるために有効であった。

- **放射線副読本の内容や構成等について改善・充実すべき点に関する意見の例**：

- ・教科の学習内容とどのように結びついているのかを明確にし、授業内で活用しやすいようにしてほしい。
- ・小学校低学年の指導で扱うことは難しい。低学年用の指導案等があると扱いやすくなる。
- ・内容が障害のある生徒には難しい。
- ・風評を助長してはいけないが、安全性を強調せず、危険性について十分解説するべきである。
- ・危険性を正しく伝えることと同時に放射線の有用性などについても大きく取り上げてほしい。